

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

この資料は Cisco サービス コントロール エンジン ( SCE ) 8000 デバイスのフロー キャプチャを有効にするためにステップを記述したものです。この機能は SCE による特定ソースと宛先間のトラフィックフローを、キャプチャするのを助けます。パケットキャプチャは SCE デバイスの分類問題を解決して重要です。この機能はサブスクライバ IP アドレスに、ネットワーク IP アドレス、転送 プロトコル等基づいてトラフィックをキャプチャするのを助けるので SCE デバイスを通して特定のフローをキャプチャすることは非常に役立ちます。

## 前提条件

### 要件

Cisco は Cisco サービス コントロール ソリューション

### 使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は SCOS バージョン 5.2.0 との SCE 8000 で遂行されるテストにこの資料があらゆる特定のソフトウェア バージョンに制限されないどんなに基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 背景説明

Cisco はユーザが SCE デバイスのこの機能の影響に気づいていることを推奨します。フロー キャプチャを有効にする場合、それは SCE のパフォーマンスに影響を与えるかもしれません。SCE は特定のフローの強度の パケット インспекション ( 解像度 ) を行わないかもしれないし、未加工データ レコード ( RDR ) はそのフローのために作成されません。それ故に、必要情報がキャプチャされるとすぐしか問題を解決し、同じをディセーブルにすることをこの機能が可能にすることを推奨します。

## 設定

ステップ 1. 交通規則を設定して下さい。交通規則はフローをキャプチャされる必要があります。定義します。サブスクリバおよびネットワークIPアドレスおよび transport プロトコル 規定して下さい。述べられるコマンドは 192.168.1.1、ネットワーク側 IP アドレスおよび転送 プロトコルで加入者側 IP アドレスを設定したものです。

キャプチャの期間を無制限ように設定するために、デフォルトはコマンドが使用される 3600 秒です。

ステップ 2. キャプチャを開始して下さい。これによって、SCE はトラフィックをキャプチャし、FTP サーバの Packet\_capture.cap ファイルに同じを記録し始めます。

ステップ 3. キャプチャされる必要がある SCE によってトラフィックを初期化して下さい。

ステップ 4. SCE がこのコマンドでトラフィック記録されることを確認して下さい。

ステップ 5 必須 information が集められた後、フロー キャプチャを停止して下さい。

ステップ 6. 交通規則を取除いて下さい。

## 確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

## トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報ははありません。

## 関連情報

[Cisco SCE 8000 インストレーション コンフィギュレーション ガイド](#)